

分担研究報告

「HTLV-1 抗体検査後の栄養方法選択支援に関する看護職の教育プログラムの作成と評価」

研究分担者 福井トシ子 公益社団法人 日本看護協会

研究協力者：有森直子（聖路加看護大学），井本寛子（日本赤十字社医療センター），大賀明子（西武文理大学），市川香織（一般社団法人産前産後ケア推進協会），江藤宏美（長崎大学），北園真希（神奈川県立こども医療センター）

研究要旨

<平成 23～25 年度；研究全体の概要>

本研究は，HTLV-1 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究（平成 23～25 年）の分担研究（抗体陽性妊婦へのカウンセリング担当養成）である。HTLV-1 抗体陽性（判定保留も含む）と判定された妊婦とその家族が直面する葛藤に，納得して意思決定できるようにカウンセリングを行う看護職を養成するための教育プログラムを作成し評価する。

<平成 25 年度の概要>

本年度は，23 年度および 24 年度に開発・実施した「HTLV-1 抗体陽性妊婦カウンセリング担当者養成教育プログラム」を基に，ビデオによる学習教材の開発と普及，また教育プログラム受講後のフォローアップも視野に入れた啓発シンポジウムを行った。

目的：「HTLV-1 抗体陽性妊婦の栄養方法の意思決定支援者」を支援するために，ビデオ教材を開発・普及すること。また教育プログラム受講後のフォローアップも視野に入れた啓発シンポジウムを実施し，今後の活動に活かすこと，とした。

方法：ビデオ教材の開発と普及：研修プログラムの構成に基づき「基礎知識編」「意思決定支援編」「意思決定支援シミュレーション編」3 部構成とした。その際，平成 24 年度に東京で開催した研修プログラムを録画し，援用した。作成したビデオ教材は主任研究班のウェブ上に掲載し，e-ラーニングの環境を整えた。

啓発のためのシンポジウム開催：平成 23 年度，24 年度に本研修プログラムを受講し，メーリングリストへ参加している受講終了者にシンポジウム開催の案内をした。日本看護協会助産師職能委員会を通じて，広報を行った。

結果：完成したビデオ教材は，HTLV-1 母子感染予防研究班（<http://htlv-1mc.org/>），「HTLV-1 の基本的知識と意思決定支援」の e-learning 学習サイト（URL：<http://narimori3.jpn.org/moodle3/>），聖路加看護大学 有森科研ポータルサイト（<http://narimori2.jpn.org/deci/>）とリンクし，ウェブで学習できるよう e-ラーニング環境を整えた。

啓発のためのシンポジウム参加者は 46 名であった。講演は計 4 題で，基調講演「HTLV-1 母子感染予防に関する研究：HTLV-1 抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究（板橋氏）」、シンポジウム「HTLV-1 抗体陽性妊婦の意思決定支援を深めよう（根路銘氏，有森氏，畑氏）」とした。プログラム内容に対する評価は 9 割以上が肯定的評価であった。

A . 目的

HTLV-1 抗体検査が公費負担によってすべての妊婦に検査が行われているものの、抗体陽性と判明した妊婦とその家族に対する全国的な支援体制が、整備されているとは言えない。特に、産まれてくる子どもの栄養方法決定に際しては、医療者の価値観が多少なりとも影響を与えている可能性が否定できない。

研究者らは、HTLV-1 抗体陽性妊婦・判定保留妊婦が授乳方法を選択する際、その意思決定の支援者を養成することを目的に、平成 23～24 年度に「HTLV-1 抗体陽性妊婦カウンセリング担当者養成教育プログラム（以下、研修プログラム）」を開発・実施し、HTLV-1 陽性および判定保留妊婦の栄養方法の意思決定支援の必要性について啓発活動を行ってきた。研修プログラムは計 5 回（東京 2 回，神戸，仙台，福岡）実施し、延べ参加者数は 177 名であった。

研修プログラムは「HTLV-1 の基本的知識」、

「意思決定支援」の具体的な展開方法に関する講義，グループごとの「ロールプレイ（以下，RP）」，グループディスカッションとディスカッション内容の共有，で構成した。一連のプログラム評価では，プログラム内容に対する期待との一致，理解しやすさ，実践への貢献，興味および満足度において 9 割が肯定的評価であった。今後，教育プログラムの効率的な普及のために，e-ラーニング教材の開発が必要であると考えられた。

そこで本年度は，1) ビデオ教材の開発と普及 2) 教育プログラム受講後のフォローアップも視野に入れた啓発シンポジウムを実施した。

B . 方法及び結果

1) ビデオ教材の開発と普及

(1) 目的

個人が学習のタイミングやペースを選択し，必要に応じ繰り返し学ぶことができる e-ラーニング教材を開発し，看護職が研修プログラムに参加することだけに留まらず，組

織内で共有できるようなツールを作成すること。

(2) 作成方法

- 1) **ビデオ教材のコンテンツ作成と素材の収集**：研修プログラムの構成に基づき「基礎知識編」「意思決定支援編」「意思決定支援シミュレーション編」3 部構成のビデオを作成することとした。「意思決定支援シミュレーション編」は研修プログラムの「ロールプレイ」に相当する内容である。ロールプレイ場面は平成 24 年度に東京で開催したプログラムを録画し，教材として援用した。
- 2) **ビデオ教材のシーン・シナリオ・図表の選定**：3 部各々の所要時間は，10 分程度とし，シナリオおよび図表を作成した。「意思決定支援シミュレーション」は，ロールプレイのシーンにその行為の意図する支援内容をキャプションで挿入した。
- 3) **ナレーションの最終調整**：画像に併せたナレーション作成と挿入を行った。

(3) 結果

作成したビデオ内容を **資料 1 . DVD 教材**の開発に示す。構成は以下の 3 部とした。

- 1) 「基礎知識編」：HTLV-1 母子感染予防対策，妊婦健診における HTLV-1 抗体検査，検査結果の説明，栄養方法選択肢および感染率・発症率，母乳感染予防の基本的な考え方，栄養方法の選択支援および留意点
- 2) 「意思決定支援編」：HTLV-1 が必要な場面，葛藤が生じる要因，栄養方法以外の「葛藤や不安」，看護職としてアセスメントする視点，オタワ個人意思決定ガイド，共有意思決定，知識・情報

の伝え方のコツと看護職の役割

- 3) 「意思決定支援シミュレーション編」: 妊娠 28 週の HTLV-1 抗体陽性妊婦の事例によるロールプレイ

ビデオ教材の完成後, HTLV-1 母子感染予防研究班 (<http://htlv-1mc.org/>), 「HTLV-1 の基本的知識と意思決定支援」の e-learning 学習サイト (URL : <http://narimori3.jpn.org/moodle3/>), 聖路加看護大学 有森科研ポータルサイト (<http://narimori2.jpn.org/dec1/>) とリンクし, ウェブ上で学習できるよう e-ラーニング環境を整えた。

2 . 教育プログラム受講後のフォローアップも視野に入れた啓発シンポジウムの実施

1) 目的

平成 23 年度および 24 年度に開発・実施した「HTLV-1 抗体陽性妊婦カウンセリング担当者養成教育プログラム」の受講者へのフォローアップの機会を作るとともに, HTLV-1 抗体陽性妊婦への支援をさらに啓発していくため, シンポジウムを開催する。

(1) 方法: 啓発シンポジウム

表 1 . に啓発シンポジウムのプログラムを示した。

- 1) **基調講演**: HTLV-1 母子感染予防に関する研究の研究代表者板橋氏から, HTLV-1 の概要 妊婦に対する HTLV-1 スクリーニング検査導入の背景, HTLV-1 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究の概要や研究の現況, 今後の課題が述べられた。
- 2) **シンポジウム**: 3 名のシンポジストが講演を行った。 鹿児島大学の根路銘氏が, 鹿児島大学を中心とした地域における先駆的な取り組みとして, 研究前の現状と問題点, 産科施

設の状況, 保健師・訪問助産師の現状, 研究体制の構築, 栄養方法選択の状況, 今後の体制作りについて, 聖路加看護大学の有森氏が意思決定支援の概要と抗体陽性妊婦が抱く葛藤, 看護職による支援の実際, HTLV-1 母性感染予防対策の課題について, HTLV-1 キャリアの当事者団体である「カラコエ」の畑氏が, これまでの体験と期待する支援について述べた。引き続き行われたディスカッションでは, これまで出会った陽性妊婦との関わりの体験や, HTLV-1 専門外来を持つ施設の活動紹介などが挙げられた。

表 1 . 啓発シンポジウムプログラム

13:30	開会 挨拶	福井トシ子 (分担研究者)
13:40-14:30	基調講演:「HTLV-1母子感染予防に関する研究:HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究」	板橋家頭夫 (研究代表者)
14:30-14:30	休憩	
14:40-16:15	シンポジウム:「HTLV-1抗体陽性妊婦の意思決定支援を深めよう」 ・地域において保健師等と連携して行う支援の実際 ・HTLV-1抗体陽性妊婦の意思決定支援 ・HTLV-1キャリアママより看護職に望むこと	根路銘安仁 (鹿児島大学) 有森直子 (聖路加看護大学) 畑由美子 (キャリアママの会「カランコエ」)
16:15-16:30	まとめ 「HTLV-1陽性妊婦の栄養方法に関する意思決定支援ビデオ」教材の紹介	
16:30	閉会 挨拶	

(2) 実施結果評価

啓発シンポジウム開始前にアンケートを配布, 終了後に回収した。参加者 46 名のうち, 34 名 (73.9%) から回答が得られた。参加者の属性を表 2 . に示す。

1) 参加者の背景

啓発シンポジウムの参加者の概要は表 2 の通りである。研究協力病院からの参加は 13 名 (38.2%), HTLV-1 に関する経験 (図 1) は「HTLV-1 陽性妊婦の意思決定支援者養成プログラム」の受講経験があるものが 6 名 (17.6%) であった。「HTLV-1 抗体陽性妊婦への遭遇経験」を有するものは 22 名 (64.7%), 相談支援経験を有するものは 14 名 (41.2%) であった。

今後相談役割を担う予定があるものは 10 名 (29.4%) であり, 平成 23~24 年度の研修プログラムの参加者の割合は, 70% から 59.3% へと下回った。

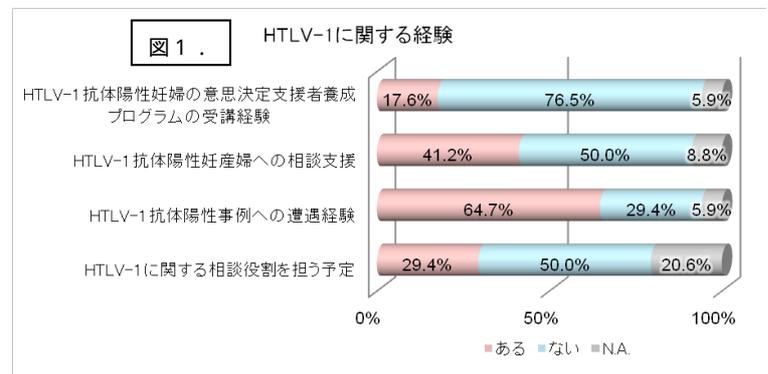
所属施設の体制として, 断乳後のケアを行う体制を有する者が 14 名 (41.2%),

表 2 . 啓発シンポジウム参加者の属性

		(n=34)		
職種	医師	1	(2.9%)	
	助産師	28	(82.4%)	
	看護師	1	(2.9%)	
	保健師	0	(0.0%)	
	その他	4	(11.8%)	
	役職	経営責任者	1	(2.9%)
上位管理職(部長など)		1	(2.9%)	
中間管理職(課長・係長など)		11	(32.4%)	
被管理職(スタッフ)		17	(50.0%)	
その他		4	(11.8%)	
所属施設		総合周産期母子医療センター	20	(58.8%)
	地域周産期母子医療センター	5	(14.7%)	
	一般大学病院	1	(2.9%)	
	一般総合病院	2	(5.9%)	
	一般産婦人科病院	0	(0.0%)	
	一般産科クリニック	0	(0.0%)	
	その他	6	(17.6%)	
	研究協力施設か 否か	研究協力施設である	13	(38.2%)
		研究協力施設ではない	14	(41.2%)
分からない		4	(11.8%)	
N.A.		3	(8.8%)	

図 1 .

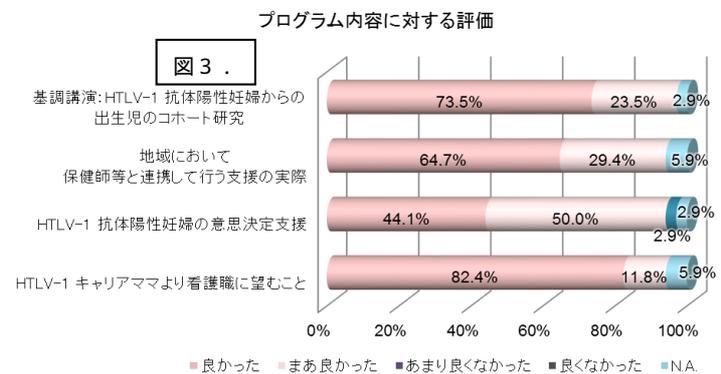
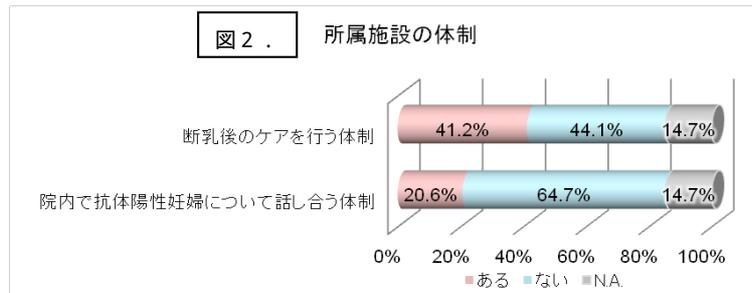
HTLV-1に関する経験



院内でHTLV-1抗体陽性妊婦について話しあう体制がある者は7名(20.6%)であった(図2)。

(3) プログラム内容に対する評価
 プログラムの内容に対する評価(図3)は、すべての講演で肯定的評価が9割を上回った。特に、当事者の体験である「HTLV-1

キャリアママより看護職に望むこと」は、「良かった」という回答が8割以上であった。自由記述からは、抗体陽性と告げられた後の妊婦の不安や辛さ、告知方法のあり方、母乳栄養を止めること切なさなど、当事者の体験を知る機会を得られてよかったという意見が挙げられた。



C. 考察

1. ビデオ教材の開発と普及

ビデオ教材開発の目的は、個人が学習のタイミングやペースを選択し、必要に応じ繰り返し学ぶことができること、そして看護職が研修プログラムに参加することだけに留まらず、組織内で共有できるようなツールを作成することであった。今後、HTLV-1陽性妊婦に対する支援の普及と、各施設内における学びの共有が拡大することが期待される。そのためには、eラーニング自体の普及活動が必要となる。集合式の研修と組み合わせた使用法も効果的であると考えられる。完成したビデオに対する評価は未実施であり、ビデオ教材の普及と並行し、評価および修正が必要と言える。

2. 啓発のためのシンポジウムの開催

啓発のためのシンポジウムの内容に対する評価は、概ね高評価であった。特に、HTLV-1キャリア当事者の体験を実際に聞く機会は希少であり、自由記述からも当事者に対する支援の必要性を実感できる内容であったことが推察できる。シンポジウムの開催は、HTLV-1抗体陽性妊婦への支援をさらに啓発する機会になったと言える。

啓発シンポジウムは「HTLV-1抗体陽性妊婦カウンセリング担当者養成教育プログラム」の受講者へのフォローアップを視野にいれていた。しかしながら研修プログラムの受講経験がある参加者は6名(17.6%)、23-24年度開催の計5回の研修プログラムの参加者の3.4%に留まり、フォローアップとしての目的を果たすこ

とはできなかった。フォローアップの位置づけとなる本シンポジウムに、教育プログラム受講生が参加していない理由として、フォローアップの必要性を感じていないことや、加えて受講後に実践においてカウンセリング担当者としての役割を發揮できていない可能性が考えられた。研究者らが教育プログラムを開発した目的は、HTLV-1 抗体陽性（判定保留も含む）と判定された妊婦とその家族が直面する葛藤に、納得して意思決定できるようにカウンセリングを行う看護職を養成するためであった。プログラム受講後、受講生が学びを活用し、妊婦の支援を行う機会がないのであれば、教育プログラムを開発した目的を果たせているとは言い難い。

次に HTLV-1 陽性妊婦へ支援体制について今回のシンポジウム参加者の対応実状から考察する。参加者の 6 割は、HTLV-1 事例に遭遇する経験を有していた。しかし、実際に相談支援を行った経験は 4 割、今後役割を担う予定がある割合も 3 割、院内で抗体陽性の妊婦について話合う体制を有する参加者は 2 割程度であった。

今後の課題

開発した e-ラーニング教材の普及と評価、さらに e-ラーニングを普及させるための戦略的な広報活動が課題である。

D．結論

平成 23 年、24 年に開発した教育プログラムの研修をとおして精錬させ、平成 25 年には、ビデオ教材を作成した。ビデオ教材の活用が期待される。

F．健康危険情報

なし

本事業が開始されて 3 年が経過しているが、臨床の現場では支援体制の構築という点で課題が多い。一方で、すでに断乳後のケア体制を有する施設からの参加者は 4 割であった。看護職が妊婦の支援を行う際、この資源を活用できる可能性がある。今後 HTLV-1 妊婦に遭遇し、支援者自身が学習機会を求めた際、今回開発したビデオ教材を効果的に活用し、妊婦に対する支援の開始につながることを期待できる。そのためには、開発した e-ラーニングの普及と評価を行うことが求められる。

平成 24 年度の研修受講者が、自県において HTLV-1 抗体陽性妊婦への意思決定支援研修を平成 25 年に開催した。さらに、九州地区の産科クリニックでは、HTLV-1 抗体陽性妊婦に関わる多様な価値を持つ医療従事者が、この意思決定支援ツールを用いることによって、当事者の選択を支えることの意味や意義について、有意義であるという語りを聞かせてくれている。これらの反応は、まだ少ないものの、院内の体制を整えつつ、意思決定支援が行われていくものと期待している。

G . 研究発表等

福井トシ子：宮崎県医師会において意思決定支援研修（2013.4.6）

福井トシ子：千葉県習志野健康福祉センター；HTLV - 1 抗体陽性妊婦や家族への支援と相談体制（2013.3.11）

福井トシ子：横須賀市こども健康課すこやか親子係；HTLV - 1 抗体陽性妊産婦への栄養方法の選択支援と実践支援（2013.8.1）

福井トシ子，有森直子，井本寛子他：自由集会1「HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス1型)と授乳方法の意思決定支援について，第27回日本助産学会学術集会，2013.5.1，札幌

北園真希，福井トシ子，有森直子他：看護職を対象にしたHTLV-1抗体陽性妊婦の授乳方法に関する意思決定支援プログラムの評価，第27回日本助産学会学術集会，2013.5.2，金沢.

有森直子：HTLV-1キャリア女性に対するカウンセリングを通じた意思決定支援，助産雑誌 VOL68 no1 2014年1月号

福井トシ子，有森直子，市川香織他：HTLV-1抗体陽性妊婦の意思決定支援を深めよう. シンポジウム，2014.1.26，東京.

有森直子，福井トシ子，井本寛子他：HTLV-1陽性妊婦の栄養方法に関するビデオによる意思決定支援プログラムの開発，第28回日本助産学会学術集，2014.3.22，長崎.

北園真希，福井トシ子，有森直子他：修正版「HTLV-1抗体陽性妊婦カウンセリング担当者養成教育プログラム」の開発と評価，第28回日本助産学会学術集，2014.3.23，長崎